

循環型社会づくりに向けたごみ処理のあり方を考える会（第1回）議事概要

日 時：平成22年12月16日（木） 14：30～16：30

場 所：KTI大ホール（AIMビル8F） 北九州市小倉北区浅野3-8-1

出席者（敬称略）：

浅野直人、網岡健司、泉優佳理、上田直子、江口勝、岡崎尚文、緒方撰子
河邊政恵、桐原裕子、白石佳則、中川昭之、野尻由香、花崎正子、番野宅二
松永裕己、諸藤見代子（：座長）

1. 開 会

- （1）北九州市環境局長挨拶
- （2）構成員・事務局の紹介
- （3）座長・副座長の選出

2. 「考える会」の今後の予定

「考える会」の今後の予定について、循環社会推進課長より説明。

3. 議 事

- （1）一般廃棄物処理基本計画に基づく取組みの結果について
一般廃棄物処理基本計画に基づく取組み結果について、循環社会推進課長より説明。
- （2）産業廃棄物処理の現状について
産業廃棄物処理の現状について、産業廃棄物対策室長より説明。
- （3）第2次循環型社会形成推進基本計画等について
第2次循環型社会形成推進基本計画等について、浅野座長より説明。
- （4）次期基本計画の基本的な考え方について
次期基本計画の基本的な考え方について、循環社会推進課長より説明。

（意見の概要）

【計画の考え方について】

北九州市が環境都市として目指す姿をどのようなものにするのか、それを市民生活の視点から測る「ものさし」が必要。

高齢社会に向けて、現在の北九州市の廃棄物行政が市民の生活状況に合っているのかどうかの検討が必要。

高齢化率も見込んだごみ発生量の予測に基づく計画づくりが必要。ごみの総量だけでなく、収集コストなども含めた検討が必要。

近年、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなど、市民生活とビジネスをつなぐということが非常に活発になってきており、環境面においてもそのような可能性があるのではないかと。

北九州市内で全部自己完結的に循環圏をつくるという方向もよいが、できたものはきちんと使ってリサイクルの環を完結するというときに、市内だけでは完結しないものもあるかもしれない。市域の中だけで回すという考え方ではなくて、もっと工夫があってもよいのではないかと。

自然共生の視点について北九州市らしさが具体的に出せればよい。

【市民啓発・周知について】

北九州市民は他の地域より環境問題に高い関心を持っているが、熱心な人はより熱心であり、そうでない人は全く関心がないという二極化している面もあると思う。

意識の低い人に浸透させるためには、北九州市のすばらしい実績を含めてアピール繰り返していくことが必要。家庭ごみの収集については子どもを巻き込んだアピールが重要。

ごみをどのように処理しているのかを市民に知ってもらうこと、市が進めている施策をいかに市民に見てもらうかが大切。

分けた後にどうなるということを、行き道がはっきり分かるような形で市民に知らせていくことが重要。

プラスチック製容器包装の分別については、多くの市民にまだ迷いが多い。

【その他】

グリーンコンシューマーの活動については、もっと研究する必要がある。

事業系ごみの不法投棄など、事業主の意識の問題について解決できる方法があるか。

北九州市では、市内ですべてが循環できるという、まさに循環型社会を見ることができ。これは、住民として納得がいく形になっており、このようなことができる地方自治体は少ないので、国の雛形とできるような案が出していけるのではないかと。

集合ビルなどでごみの出し方の悪さが目立つところもあるが、不動産業界も巻き込んだ形で対策を検討することが必要なのではないかと。

オフィス町内会が集めた資源化物の量は、集団回収で集まっている量と比較して桁違いに少なく、このあたりが一つのかぎとなるのではないかと。